

平成29年度労働事情実態調査 速報

今年のトピックス「中小企業の人材不足について」

新規学卒者採用について

★新規学卒者採用については、採用意欲は増加傾向にあるが、採用実績人数は減少している。

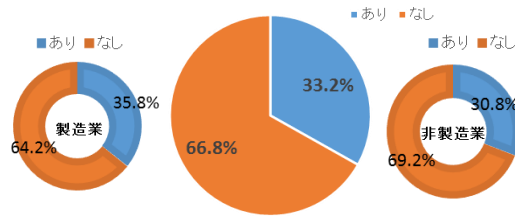
- ・H29年度採用については、「新規学卒者を採用した」と答えた割合が昨年より2.2ポイント上昇した。(H28年 31.0%→今年 33.2%)
- ・採用充足率は、全体で83.3%となり、昨年の88.1%から減少した。
(採用充足率…採用予定人数に対する採用実績人数の割合のこと)
- ・平成30年度の採用計画があると答えた事業所は37.9%であり、
昨年の30.6%から上昇した。

新規採用予定数と採用数について

※「採用計画あり」と答えた事業所126社

(n=126)	全体	①採用実績		採用充足率
		予定者数	採用数	
全体	126社	377	314	83.3%
平均人		2.99	2.49	
製造業	64社	229	192	83.8%
平均人		3.58	3.00	
非製造業	62社	148	122	82.4%
平均人		2.39	1.97	

平成29年3月新規学卒者の採用計画



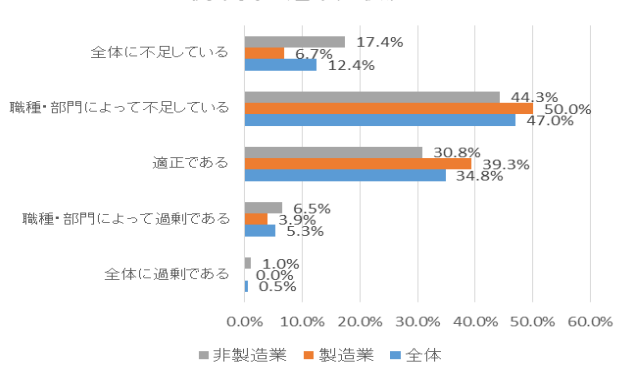
従業員の過不足について

★回答事業所の6割近くが「人材不足である」としており、特に現場の不足感が大きい。

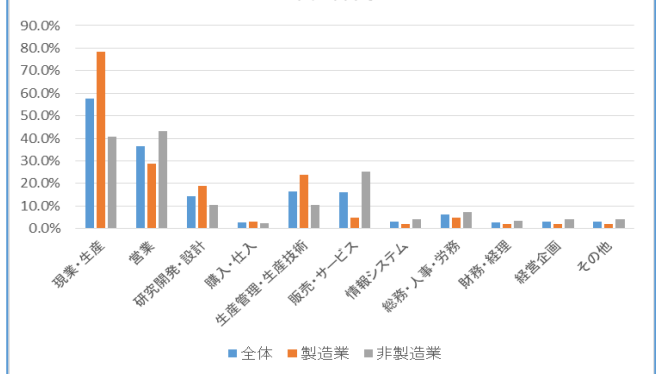
その理由としては、人材の採用・定着に問題があるとるところが多い。

- ・従業員の過不足について、59.4%が「不足している」と答えた。(47.0%+12.4%)
- ・不足している部門として、全体では「現業・生産」が57.6%で一番多かった。製造業では「現業・生産」(78.2%)が不足。非製造業では「営業」(43.1%)と「現業・生産」(40.7%)が不足。
- ・不足している理由として、「求める人材が来ない」とする事業者が半数強(57.3%)であった。次いで「新規採用が困難になった」(33.8%)、「若手従業員が定着しない」(26.2%)とあり、人材の採用・定着に課題を持つ回答が多かった。
- ・従業員不足への対応として「経験者の中途採用」(70.2%)や「継続雇用者の活用」(31.6%)といった即戦力を求めるものと「新規学卒者の採用」(43.1%)の割合が高かった。

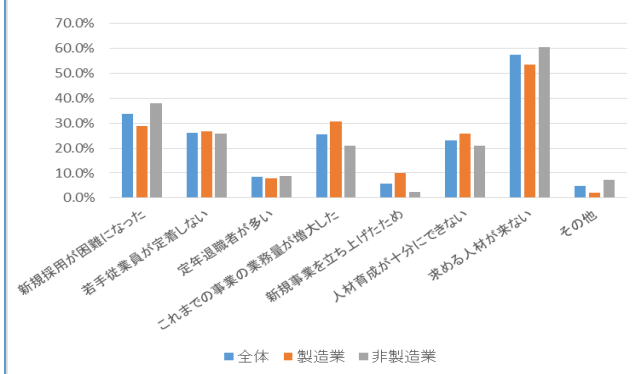
従業員の過不足状況



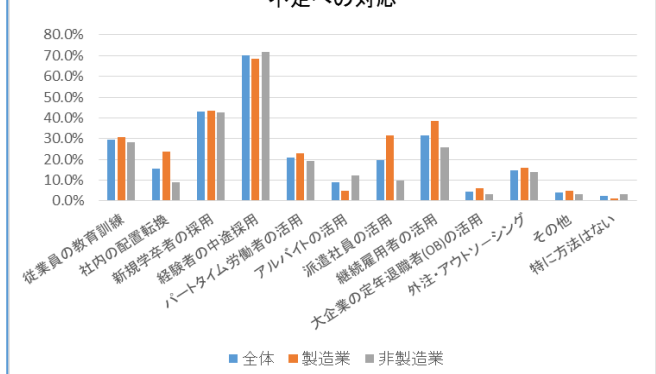
不足部門



不足の理由



不足への対応



トピックスまとめ

★現場で働く従業員が不足している現状があり、その理由の一つとして「採用をしたいが、新規学卒者採用が困難である」という点が考えられる。
そのため、経験者採用や継続雇用といった即戦力による対応をしようとしている。

◇ 調査のあらまし

1. 調査目的

本調査は、石川県内における中小企業の労働事情を的確に把握し、適正な中小企業労働対策の樹立、並びに時宜を得た中央会労働支援方針の策定に資することを目的とする。

2. 調査時点

平成 29 年 7 月 1 日現在

3. 調査実施方法

調査対象企業は、無作為に抽出した石川県下の事業所を、業種別・従業員規模別に選定し、調査票を送付し回答を求めた。調査結果は石川県中小企業団体中央会において集計し取りまとめた。

4. 調査対象事業所数

800 事業所（製造業 55%、非製造業 45%）

5. 回答事業所数

380 事業所（内製造業 179 事業所、非製造業 201 事業所）

回収率 47.5%（昨年比 3.5%減）

6. 本調査速報

調査により集計したもののうち、今年度の重点案件として挙げられていた「従業員の過不足」について、関連項目を取りまとめたものである。